

令和元年度山梨県南都留地域教育フォーラム提案書

第3分科会
富士学苑高等学校
教諭 奥脇 謙治

「ボランティア体験の重要性」

1. 本校におけるボランティア活動の理念

(1) 校訓「報恩・奉仕・精進」

「報恩」・・・「おかげさま」「ありがとう」の気持ちを常に持ち、人々への感謝の気持ちを忘れない。

「奉仕」・・・「私がします」と常に率先し、善行に励む。

「精進」・・・「何事にも全力を尽くす」という「なりきる心」を体得する。



■ 本校外観



■ 接心の様子

(2) 校訓を実践するものとして、学校行事に「接心」がある。作務（掃除）、食事作法、座禅、写経等を通じ、「なりきる心」の体得に努める。作務中は、無言で草を取り除き、ほうきでゴミ、落ち葉等を掃き、そのことだけに専念・集中する。このような経験がボランティア活動の清掃に効果を発揮している。

また、学校行事で一年に二回「全校奉仕」が行われている。春は学校周辺、秋は生徒が住んでいる地域を清掃している。日頃お世話になっている地域に感謝の意を込めて清掃し富士山世界遺産の地元として、良い環境作りに貢献することを目的に実施している。

さらに、地域との連携を図るためにインターアクトクラブが地域ボランティアの推進に励んでいる。インターアクトクラブとは一年から三年までの各クラスからクラブ員を選出し、月一回の例会と各地域の団体と連携し地域行事等に参加している。※インターアクトクラブとは富士吉田のロータリークラブの提唱によって国際ロータリー第 2620 地区のインターアクトクラブとして 1990 年に発足した。来年で 30 周年を迎える伝統あるクラブである。また、第 2620 地区には静岡と山梨を合わせて 20 校のインターアクトクラブが所属し、相互の交流を図っている。

2. インターアクトクラブの活動

(1) 社会奉仕活動

①地域清掃活動については、毎年市の依頼を受け「富士山憲章キャンペーン」に参加し、富士登山をする人々にゴミを持帰る呼びかけをし、ゴミ袋を渡す作業をしている。また、日頃よりインターアクトクラブの活動を支援して下さる富士吉田ロータリークラブの方々と「富士山クリーン作戦」を毎年7月に行っている。これも富士山五合目においてゴミを持ち帰るといふ呼びかけとともにゴミ拾いを行う。近年、外国人観光客が増えたことでゴミも増えている傾向がある。私達が誇る富士山の環境を守りたいとクラブ員は一生懸命ゴミを拾っている。このような活動を通して地域に対する情愛を育くみ、人とのコミュニケーションが図れていくことに意義があると思っている。



② 次いで募金活動がある。これも市の依頼を受け、初秋に「赤い羽根共同募金」として市長さんをはじめ、教育長さんなどとともに市内の大型スーパー前で募金活動を行い、地域の人たちに募金を呼び掛けることを通し、社会貢献に繋げている。この際、生徒の中には進んで着ぐるみをまとい、子供たちと接し、日頃できない体験をする者もいる。このような人助けの気持ちがこの活動を通して生徒たちに根付いていくものだ実感している。

また、地震などの自然災害における大惨事の際はインターアクトクラブと生徒会が率先して、街頭募金活動を独自に実施している。昨年は西日本豪雨災害義援金として¥201,644を、北海道胆振東部地震義援金として¥143,578を、それぞれ山日YBS厚生文化事業団を通じて被災地に送ることが出来た。また、赤い羽根共同募金は¥81,490を社会福祉法人中央共同募金会へ送ることが出来た。このようなことから最近では生徒の方からすすんで「募金活動をしましょう」と呼び掛けてくるようになった。この活動を通して「困った人を放っておけない」、「助けたい」という社会奉仕の精神を育むことができ、我々教員側も嬉しく感じている。

また、地域の人との交流を通して暖かい心を感じる事が出来、生徒にとっても活動の張り合いとなっている。



(2) 地域ボランティア

① 毎年行われる市などの行事における地域ボランティアにインターアクトクラブは積極的に参加している。その一つが富士登山競争である。

7月に富士山五合目と頂上の2コースに分かれ、多くのランナーが参加している。そのランナーの荷物を預かり、終了後に引き渡すという作業を行っている。これも多くの世代が違う人たちとの会話があり、生徒のコミュニケーション能力のレベルアップに繋がっている。また、市役所職員との対話を通じて本校の生徒の人間性を理解していただく機会となっている。

また、火祭りロードレースにも参加し、同様の作業を行っている。参加する生徒の中には何度も参加し、体験を積んでいる者もあり、担当して頂いた方にその手際の良さを驚かれることもある。また、これらは全国的なイベントであるため、多くの県外者から「どこの学校なの？」と聞かれ学校の紹介もできるようになった。



更に、市制祭の手伝いもある。ここ2年間は天候不順のため、中止が続いているが、この行事では山梨中央銀行富士吉田支店の駐車場に設置されるメインステージ裏で、補助員を行っている。これも市制祭を盛り上げるための1コマで市の行事への貢献として一生懸命に取り組んでいる。

② 地域団体のイベント（行事）に協力するボランティア活動にも年間を通して多く参加している。この活動も毎年依頼されるものが多く、地域団体との交流が深いことを示している。生徒の評判も良く、地域との連携が保てる要因になっている。当校周辺では4月から西裏昭和まつり、ドラゴンフェスタ（竜ヶ丘）、富士山マーケット、そして秋にハタオリマチフェスタ、下吉田オータムフェスタなどがあり、依頼を受け参加している。どのイベントも吉田の街おこしの一役を担っているものだと考えられる。その手伝いをする中で、生徒の自主性や創造性が養われているように見受けられる。また、「ありがとう」と声をかけられることの嬉しさが自然と奉仕の心に繋がっているようにも感じる。また生徒の中にはこのような活動を積み重ねてボランティアの時間が100時間を超える者もいる。

※本校には『ボランティア単位』が認められており、校訓の“奉仕の精神”を尊び、ボランティア活動に参加した時間が複数の活動を通して 35 時間を超えた生徒には「ボランティア単位」を1単位認定することが決められている。

③ 介護ボランティアの観点に立つ活動も多く行っている。富士吉田市周辺には多くの特別養護老人施設があり、その介護施設への慰問活動ができるのは夏休みである。このシーズンの介護施設では、施設利用者の家族を招き、納涼祭が企画される。その納涼祭の手伝いをすることでイベントを盛り上げたり、車いすを押したりと利用者とのコミュニケーションを図ったりしている。毎年、依頼されているのが寿荘納涼祭、富士山荘祭、平山納涼祭、はまなす納涼祭、富士聖ヨハネ祭、そして富士ふれあい村祭といったイベントである。このような活動を通して、介護の必要性を強く感じる事が出来、奉仕の心を更に深く持つことに繋がっていると思っている。また、この活動がきっかけで特別養護老人施設に就職するインターアクトクラブ員も少なくない。これも校訓の「報恩・奉仕・精進」の精神から培われているのかと、その縁を感じる。

この介護施設へボランティアとして参加した生徒からは“車いすを自ら進んで押しあげたらそのおばあさんから「ありがとうね」と笑顔でお礼を言われて素直に嬉しかった。”“納涼祭の娯楽コーナーでおじいさんとオセロゲームをして、そのおじいさんが無邪気に笑って楽しむ姿に気持ちよさを感じた。”“話が盛り上がり「あんたと同じくらいの孫がいて、今日はお兄ちゃんと楽しめて嬉しいよ。」と泣きつくおばちゃんもいて驚いた。”などの感想があり、生徒がこのような貴重な体験を通して奉仕の心を育てているとしみじみ感じている。



■まとめ■

富士学苑は校訓にあるように人間性を育てるという教えを重視している。その教育方針のもと、ボランティア精神を培う身近なことから取り組み、その中で地域との交流を深め、ながくその実践に努めている。これからもボランティアの重要性を考え、その継続を推進していきたい。